

活動名 「いしかわ業界マップ2018」の作成と公開

団体名 経済学部経営学科 奥村ゼミナール

代表者名 奥村 実樹

はじめに（背景・目的・目標）

「いしかわ業界マップ」とは、石川県に本社を置く企業をその主力事業を基に、一目で分かるように大学生が図表化した教材資料である。2015年から制作を開始、その後、業界・企業数を増やし、2018年度版では、12業界200社を取り上げるに至る継続型のプロジェクトである。作成は、奥村ゼミナール3年生によりおこなわれ、大学のHPより公開している。

活動内容

① 業界マップが扱っている業界・企業数

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 食品製造 | 2 食品卸売 |
| 3 機械製造 | 4 機械卸売 |
| 5 IT・電子 | 6 繊維・化学 |
| 7 建設 | 8 自動車販売 |
| 9 一般小売 | 10 金融 |
| 11 放送・出版・印刷 | |
| 12 旅行／ホテル・旅館／交通 | |

1～8業界で136社を2015年度3年生が作成。

9～10業界追加し161社を2016年度3年生が作成。

11～12業界追加し200社を2017年度3年生が作成。

② 業界マップの作業過程

1 取り上げる業界についての学習と分担決定

初年度の2015年度は、8業界の分類をゼミナール学生と共に下書きを何度も作りながら、どのようにまとめるべきかについての話し合いを設けた。ゼミ生16人を4人ずつ4班に分け、各2業界ずつ担当させた。学生は自身の班が担当する業界の特徴を学習した後、どのような基準で業界を分類するのが分かりやすいかについて意見を出し合った。その話し合いの結果を図で表し、最終的に業界マップとなるように方向付けた。5限目がゼミナールであったが、作業は、マップに取り上げる候補の企業の特徴を調べながら分類を考えたり、企業の経営上の特徴を説明する言葉を考

えたりしていたため、5限を超えることもしばしばあった（写真1参照）。

- 2 業界内の分類基準について話し合った後にそれを図式化していく。各業界を『食品製造』であれば「お米・めん」「加工食品」「菓子」「飲料」の4つに分類した後、そこからさらに「加工食品」なら水産物と農作物に、「菓子」なら和菓子と洋菓子に、「飲料」なら日本酒とコーヒーにと細分化していく（写真2参照）。
- 3 できあがった下書き図と別に、業界の分担ごとに学生が、ワードファイルにて各企業のロゴと主要製品の写真の選定、ならびに紹介文の作成をおこなう。写真は基本的に企業の公式HPから選んだり、学生が撮りに行ったりし、企業紹介文はゼミ活動でも協力関係にあるジョブカフェ石川が毎年発行している冊子『いしかわ元気企業』と運営するWEBサイト「ジョブNAVI石川」を中心に、各企業のHPを主に参考にしたり、企業から聞き取るなどした（写真2・3参照）。
- 4 3で作成したワードファイルを担当学生が、各企業に挨拶メールと共に添付し送付、掲載のお願いならびに修正希望箇所を尋ねた。メール返信のない企業には、直接電話をおこなった。ここで、学生は学んだビジネスマナーを活かすことができた。特にメールには各自の連絡先を記載してあるため、電話にて企画の趣旨なども含め企業から質問される機会があり、ハードルは高いが学生にとっては企業と直接接点を結ぶ機会になると同時に説明能力が試された。
- 5 全企業から掲載許可を得た原稿を、印刷会社に依頼し、イラストレーターデータに加工してもらい、そのPDFファイルを大学のゼミナールページにて公開（写真4参照）。

成果、結果の考察

当初、「いしかわ業界マップ」は、「一目で分かる」という従来にない価値観を提示し、石川県の企業を扱う新資料であることから、完成を報告した石川県からこのデータを冊子化し、毎年開催されている大規模な県主催の就職活動のための企業合同説明会にて来場全学生に対し配布する案を提示された。

またこれらの経緯は、地元の大学生が作成したということも含め新聞各紙に好意的に紹介された。

・朝日新聞 2016年12月24日（写真付き）

「金沢星稜大生が県内企業マップ」石川

・北國新聞 2016年12月25日（日）（写真付き）

「地場企業の業種一目で 金沢星稜大生が就活応援冊子」

・北陸中日新聞 2016年12月25日（日）（写真付き）「地元の企業知ってね 136社業界マップ」い

・日本経済新聞 2017年2月8日（水）（写真付き）「石川の業界マップ作成」

また、実際に本学の卒業生から、営業の参考に使えろという声や、県外の経営者団体から参考に使っているという声、また、県外の大学研究者・調査担当者（横須賀市役所調査部など）から、石川県の産業研究の際に利用したとの声をいただいた。

今後の課題、展望

運営面などでも課題は残っているのだが、根本的な課題としては、このプロジェクトの一番の長所である「わかりやすく見せる」というコンセプトが、状況によっては、受け入れられにくい面があるという点である。1つは、企業自身が、「主力事業からすぐに分かる」という自社の紹介のされ方より、多くの事業を抱える「複雑な」企業と伝えたいと考える面があるということである。もう1つは、いわば大学などアカデミックな分野において、分かりやすさの追求を、むしろマイナスに捉える傾向があるということである。

しかし、外部から声援をいただき、2015年度から自発的に継続できている地域経済を題材とした県や市、その他団体が手がけていない希少なプロジェク

トである。そのため、今後も継続し、さらに、これを核にした関連するプロジェクト（地域経済を扱う）を可能ならば企画し発表していきたい。

写真1 ゼミ用PCを用いての作業風景（2015年度）



写真2 食品製造の学生による下書き



写真3 食品卸売の学生による下書き

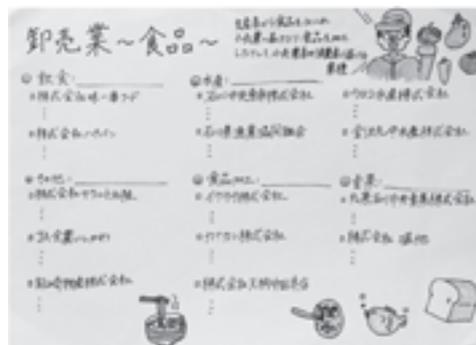


写真4 実際の食品製造の完成画面

